

2010年12月期 決算説明資料

カルナバイオサイエンス株式会社
代表取締役社長
吉野公一郎

JASDAQ

証券コード:4572

1. 会社と事業の概要 3
2. 2010年12月期 経営成績の概要15
3. 2011年～2013年12月期 中期事業計画23

■会社名: カルナバイオサイエンス株式会社
(英文社名: Carna Biosciences, Inc.)

(2010年12月末現在)

■代表者名: 代表取締役社長
吉野公一郎

■設立: 2003年4月10日
(日本オルガノンからスピンオフ)
2003年10月業務開始

■上場日: 2008年3月25日

■資本金: 21億2,563万円

■発行済株式数: 58,710株

■株主数: 3,353名

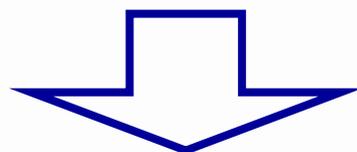
■役員及び従業員数: 役職員54名(単体)

■所在地: 神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA 3F (ポートアイランド内)
(BMA:神戸バイオメディカル創造センター)
(最寄り駅:ポータルライナー 先端医療センター前駅 徒歩1分)

■事業内容: キナーゼをターゲットとした創薬事業および創薬支援事業



米国型の創薬ベンチャーとなることを
目指す



革新的な医薬を生み出す
(**ガン**治療を重点領域とした**分子標的薬**)

創薬支業事業

- ・安定収入
- ・研究開発費の一部を自分で稼ぐ

キナーゼタンパク質
製造・販売

アッセイキット
開発・販売

プロファイリング
スクリーニング
サービスの受託

資金・創薬基盤技術

創薬事業

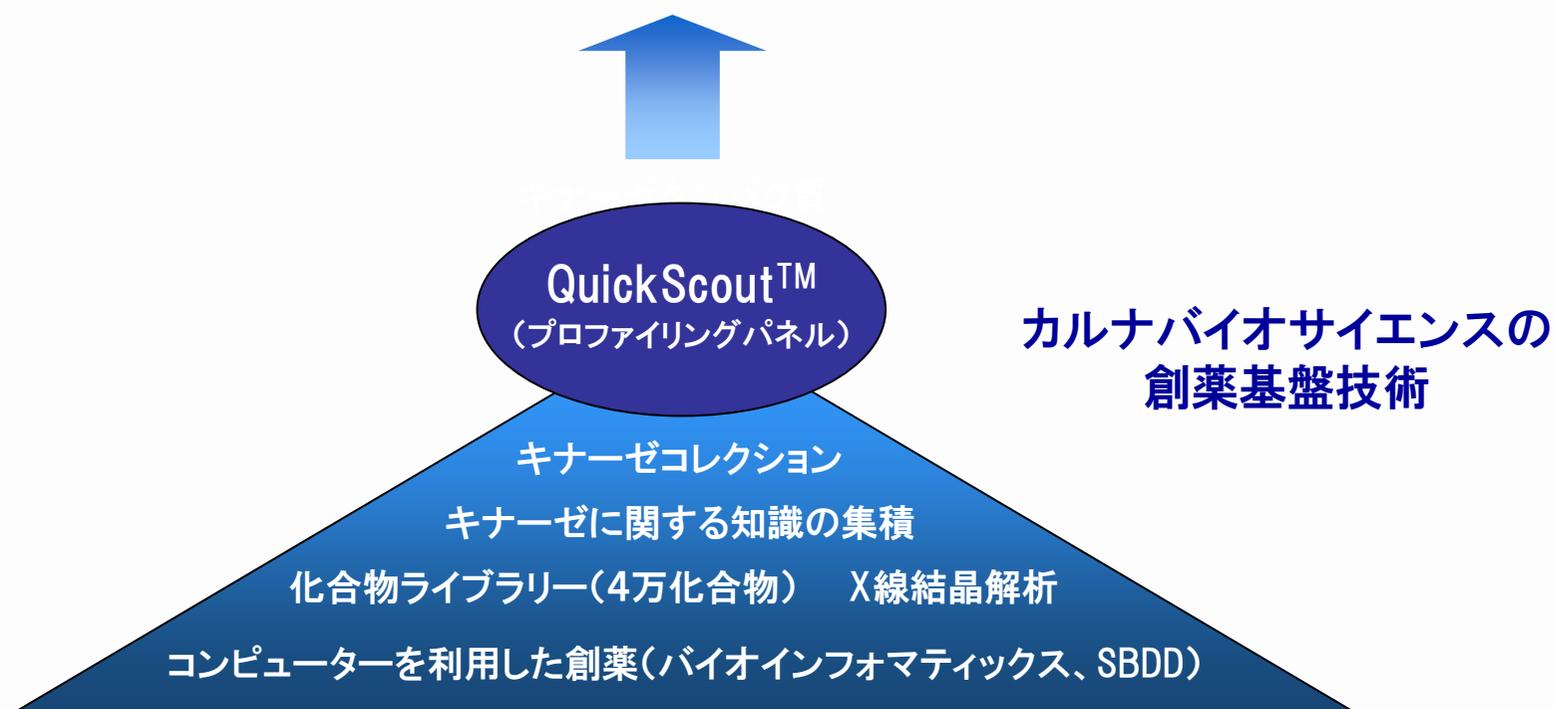
- ・先行投資
- ・大きな成長を目指す

キナーゼ阻害薬 創薬
ガン、リウマチ、神経変性疾患治療薬

アンメット・メディカル・ニーズに応えるため

ターゲット疾患: ガン、リウマチ、神経変性疾患

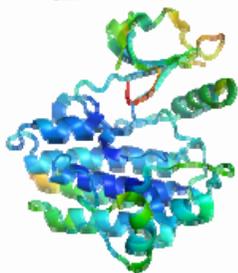
目標: 分子標的薬(キナーゼが標的)を生み出す



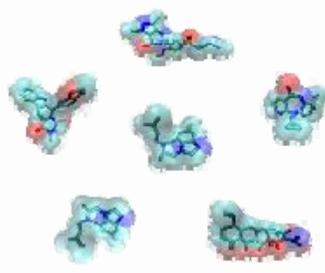


カルナバイオサイエンスの創薬基盤技術の強み

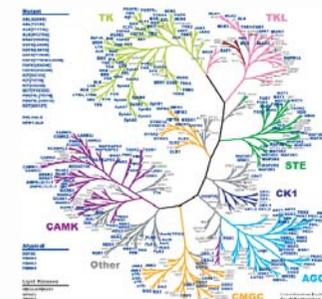
(平成22年12月末現在)



世界最大のキナーゼ
コレクション(386種類)



高品質のキナーゼ
フォーカス化合物ライブラリー



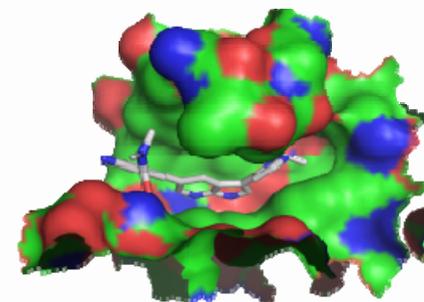
世界最大のキナーゼ
プロファイリングパネル(386種類)



高品質アッセイ系

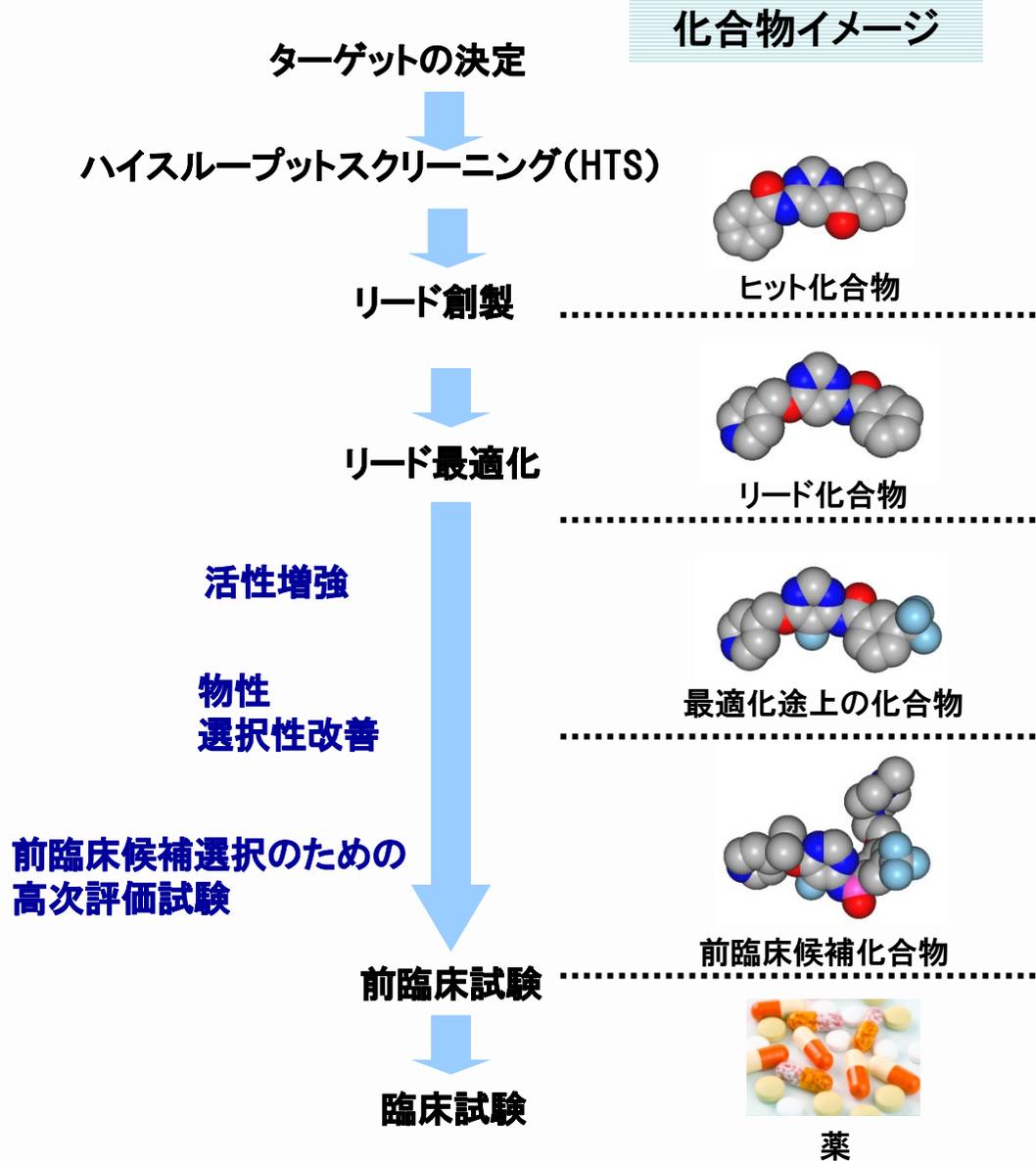


高信頼性アッセイプラットフォーム

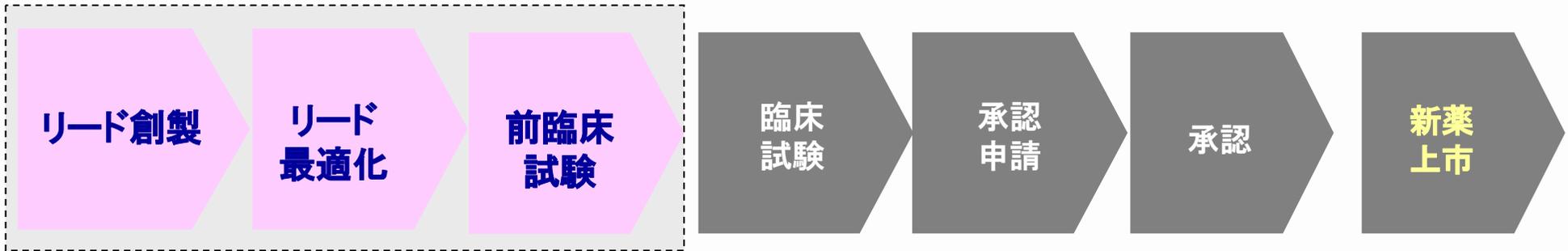


X線結晶解析

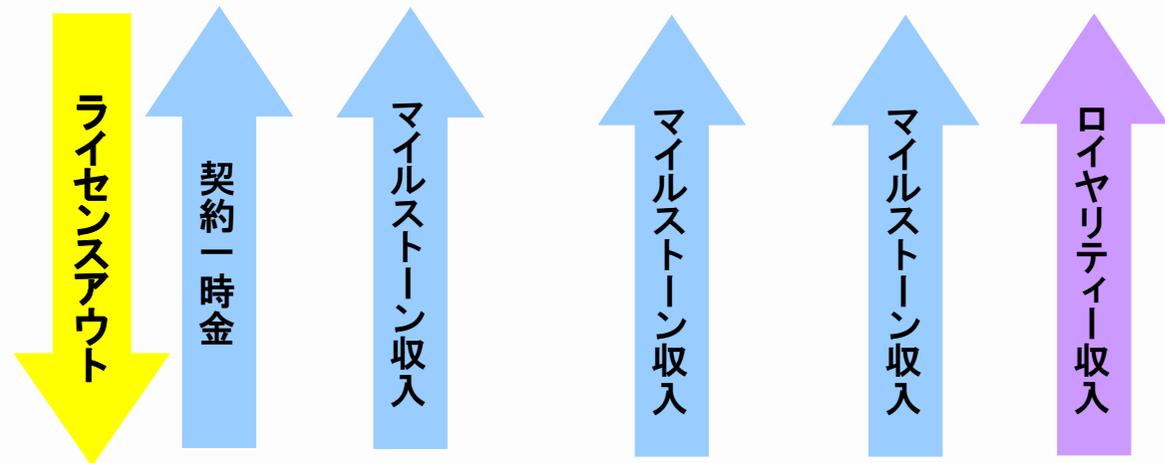
他のバイオベンチャーにはない強力な創薬化学部門を
自社内にもっていることが創薬を強力に推進する原動力



創薬事業の収益モデル①: 弊社が単独で研究を始め、前臨床試験終了時にライセンスアウト

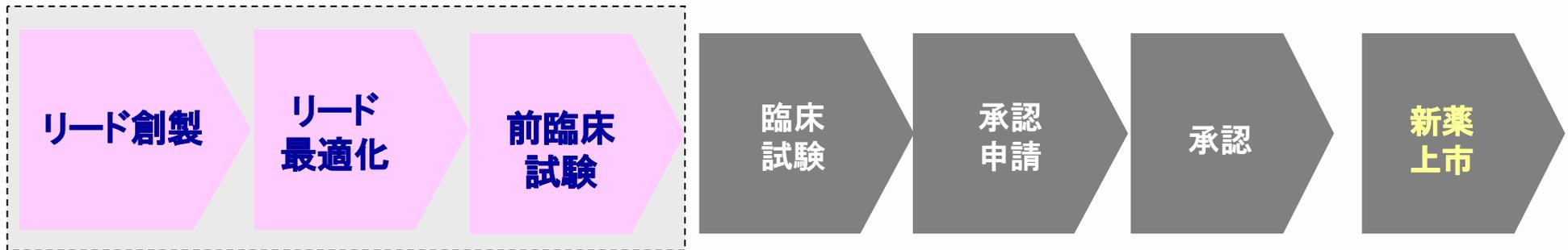


ライセンス元: カルナバイオサイエンス

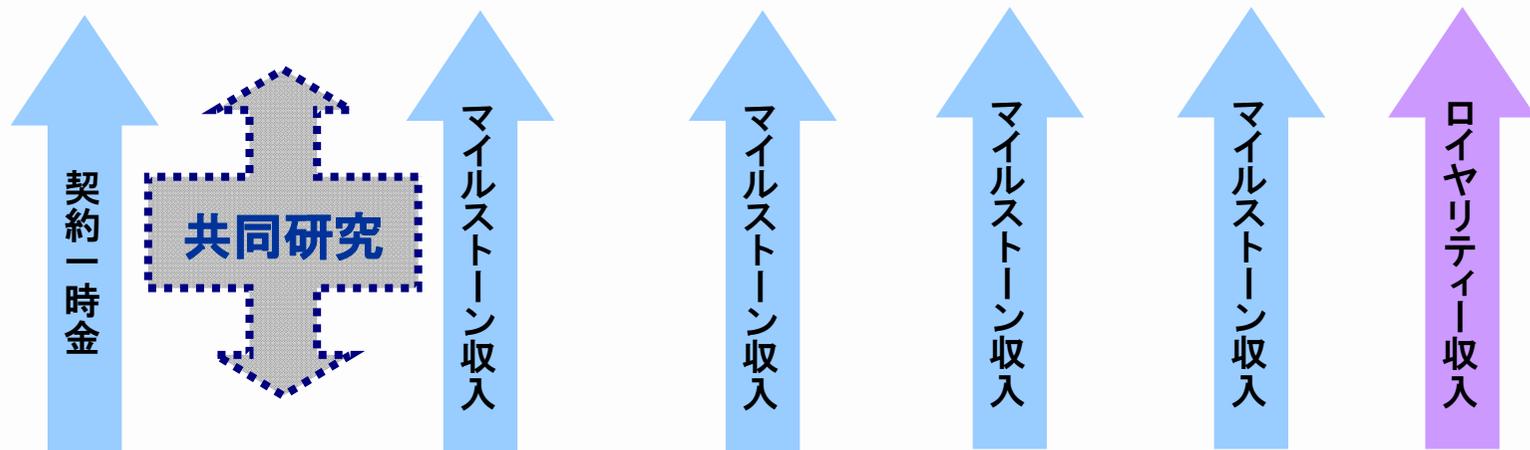


ライセンス導出先: 製薬企業

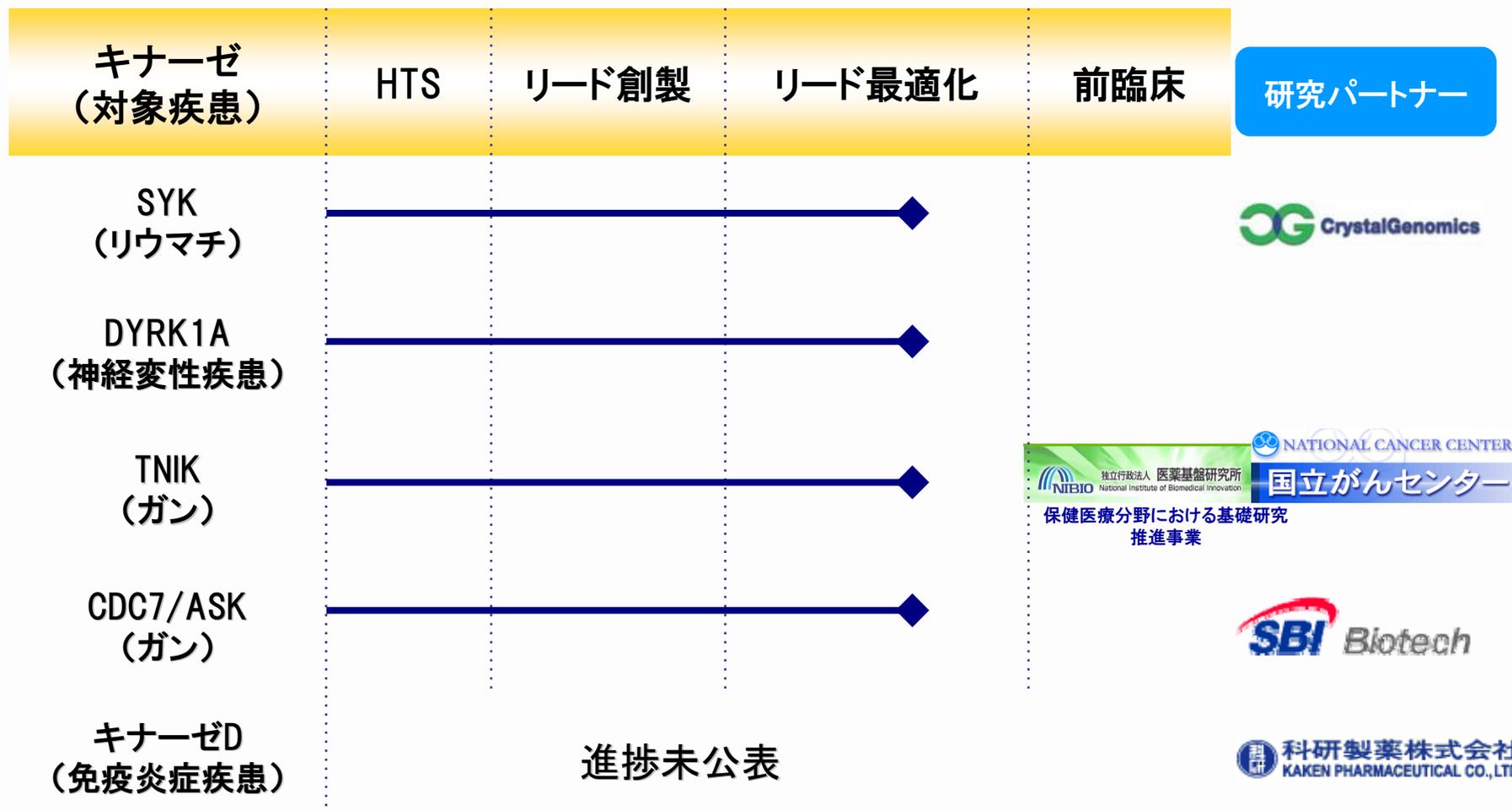
創薬事業の収益モデル②: 弊社と導出予定製薬企業との共同研究を開始し、前臨床試験終了時にライセンスアウト



ライセンス元 : カルナバイオサイエンス



ライセンス導出先: 製薬企業



- キナーゼに的を絞り、世界最大の品揃えを達成。これをコアに各種ビジネスを展開
- 全世界の製薬企業、研究機関がターゲット

□ キナーゼタンパク質

- ✓ 388種類の高品質キナーゼタンパク質を供給可能

□ アッセイキット(開発)

- ✓ 311種類のキナーゼに対し、474種類のキットを準備

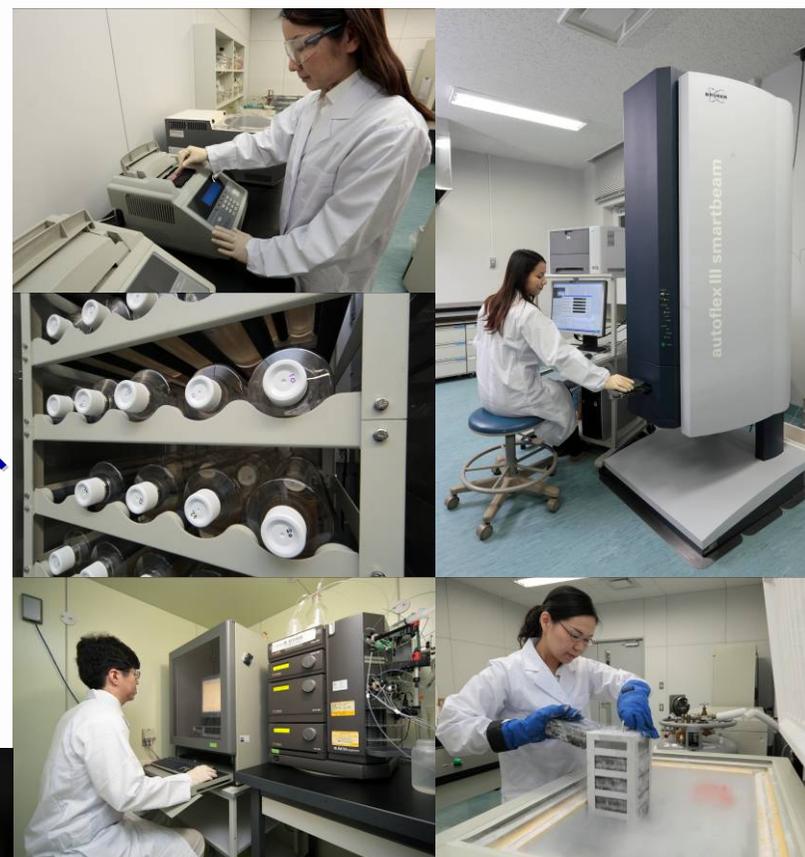
□ プロファイリング、スクリーニングサービス

- ✓ 311種類のキナーゼに対してプロファイリング可能
- ✓ プリセレクトパネル(QuickScout™)

□ キナーゼX線結晶構造解析サービス

- ✓ CRELUX GmbHの代理店

2011年2月現在



- 物を売るだけではなく、ソリューションを提供する
- 日本、欧米は直販(その他地域は代理店網による販売)
- 提案型営業による顧客からの強い信頼
- 国内、海外の大手製薬企業、バイテック企業が主要顧客

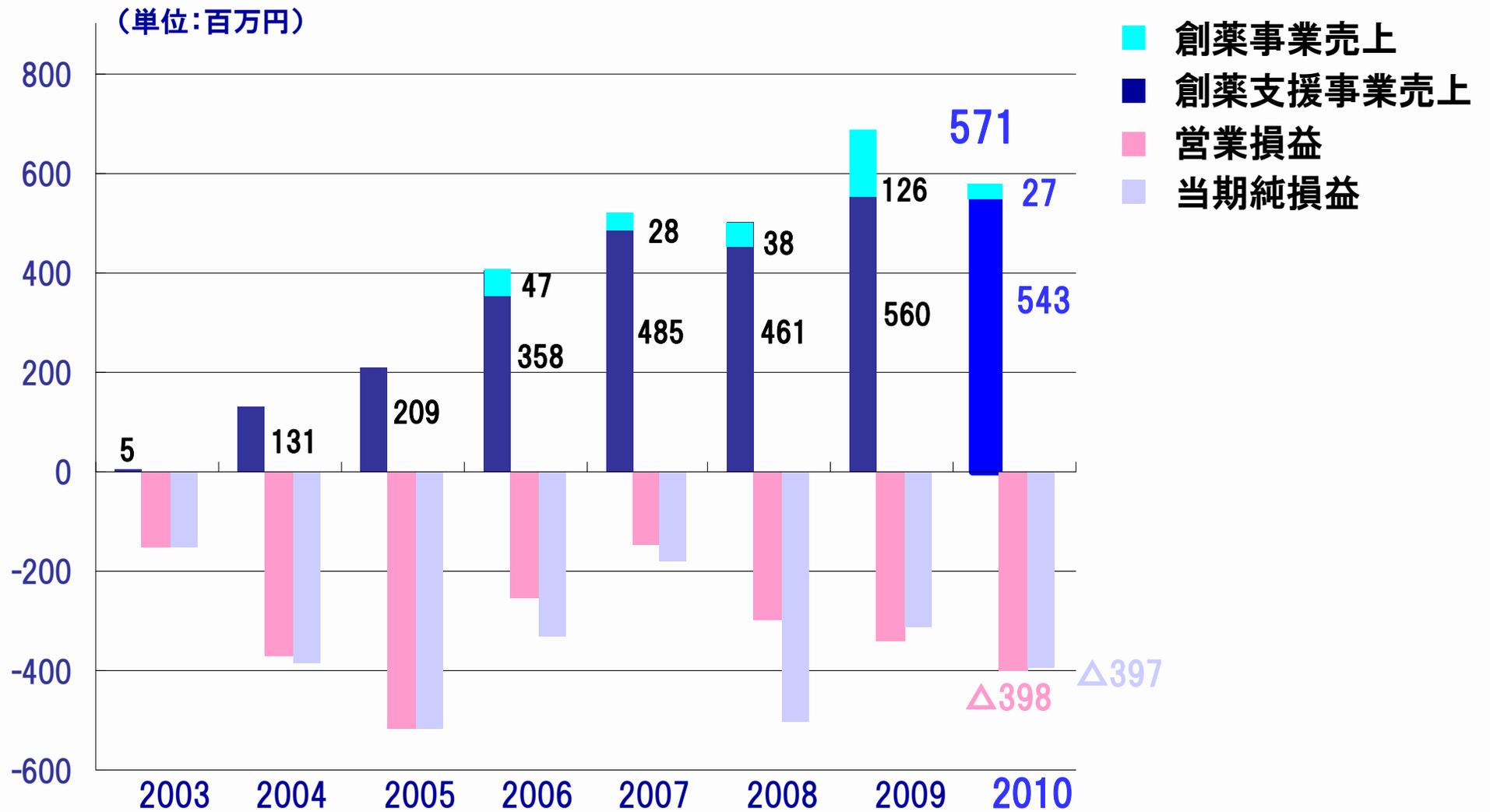


2010年12月期 経営成績の概要

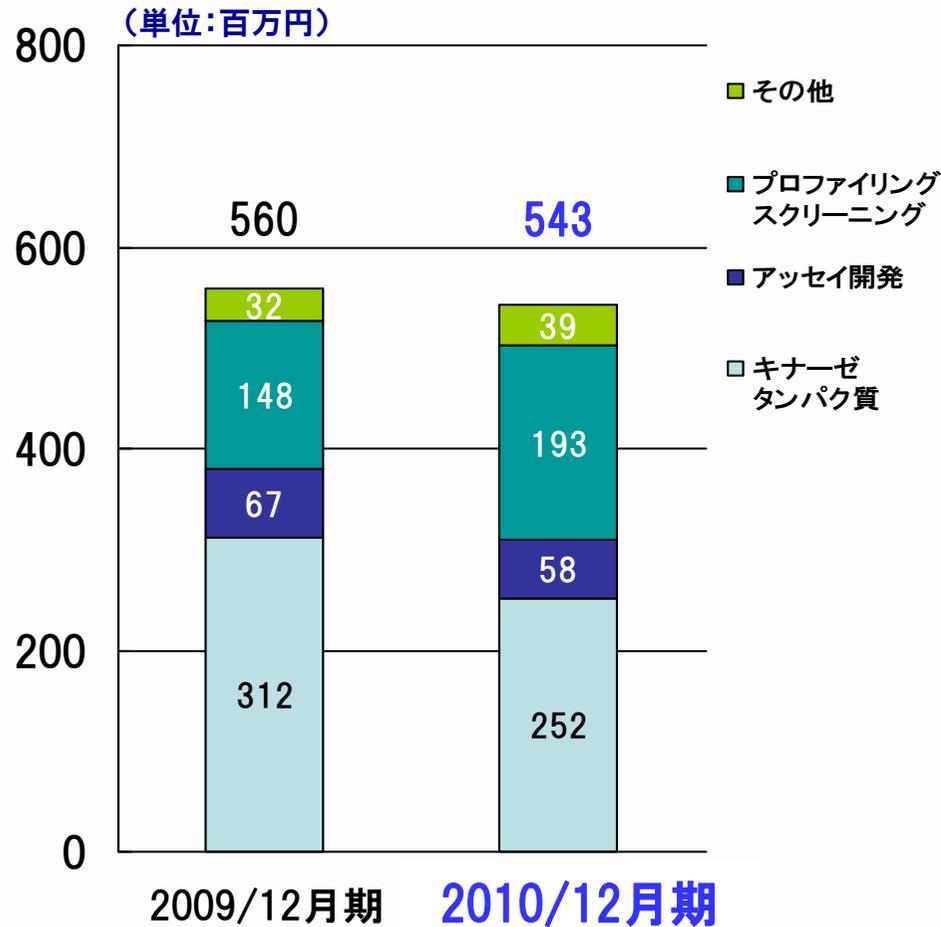
(百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2009年12月期 通期実績	687	△344	△349	△315
2010年12月期 通期実績	571	△398	△370	△397
2010年12月期 通期計画値	571	△398	△370	△397
対前年同期比	△115	△53	△20	△81

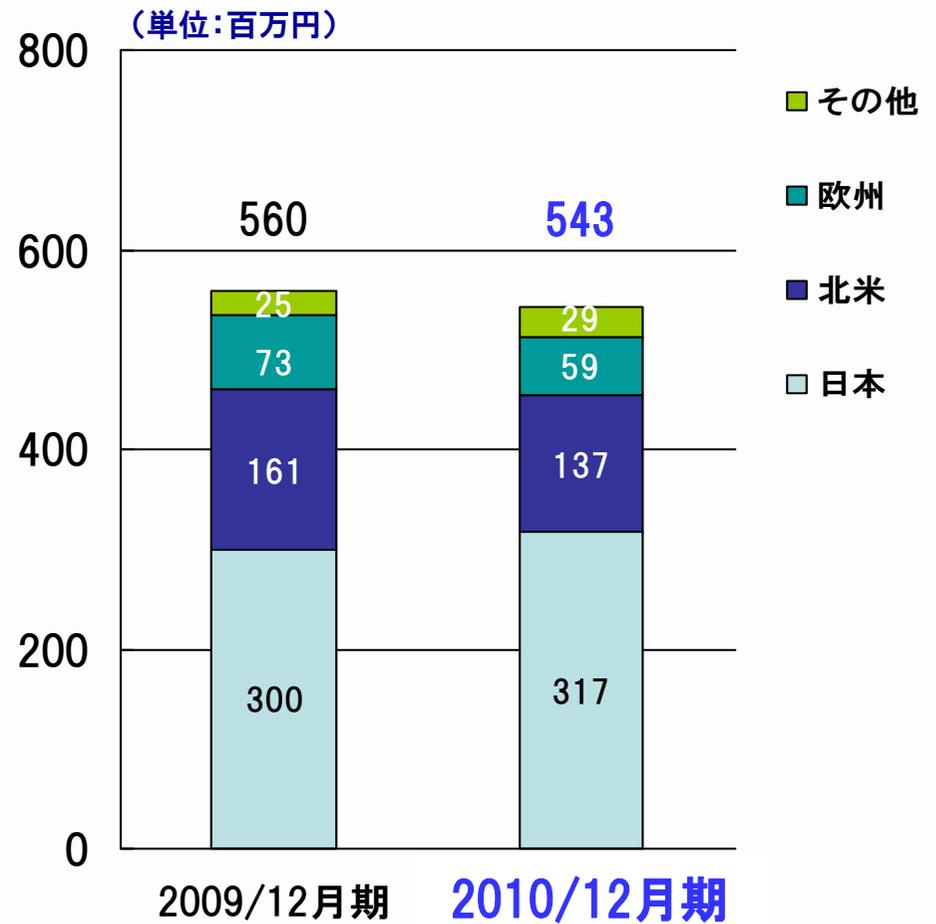
(注)2010年12月期 通期計画値は、平成23年1月21日に公表しました「マイルストーン開示に係る事業計画の修正について」で修正した数値を示しております。



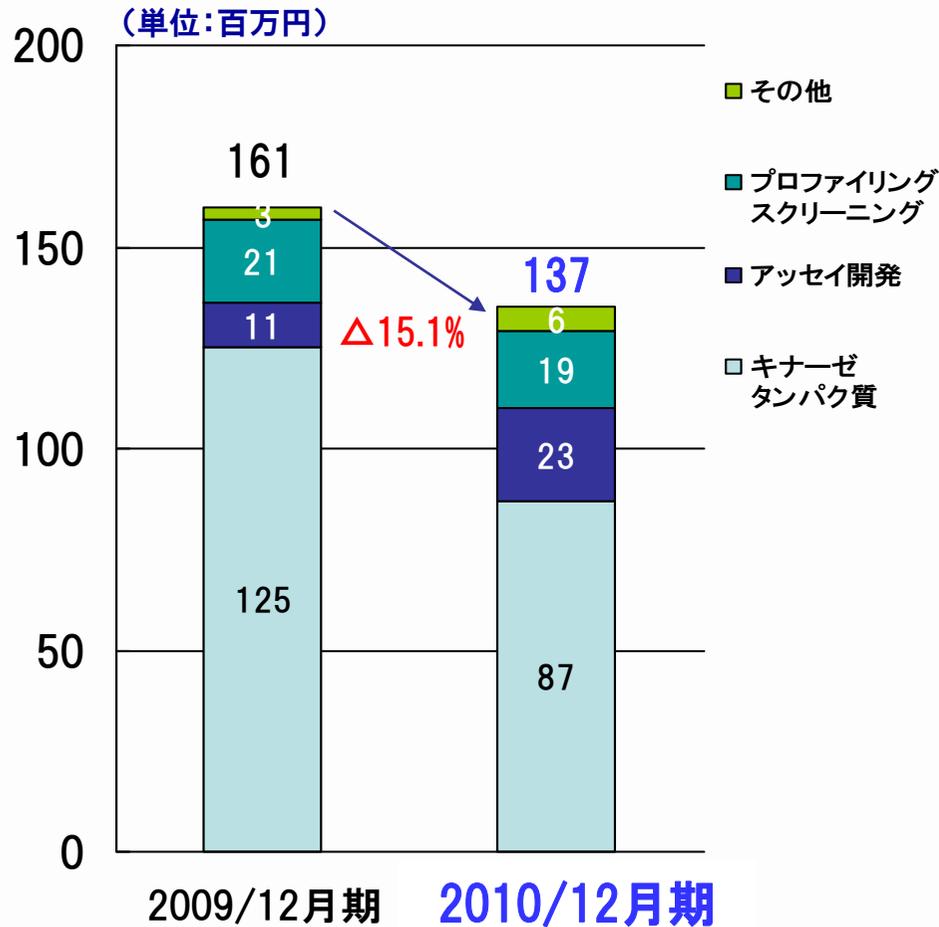
製品別売上高



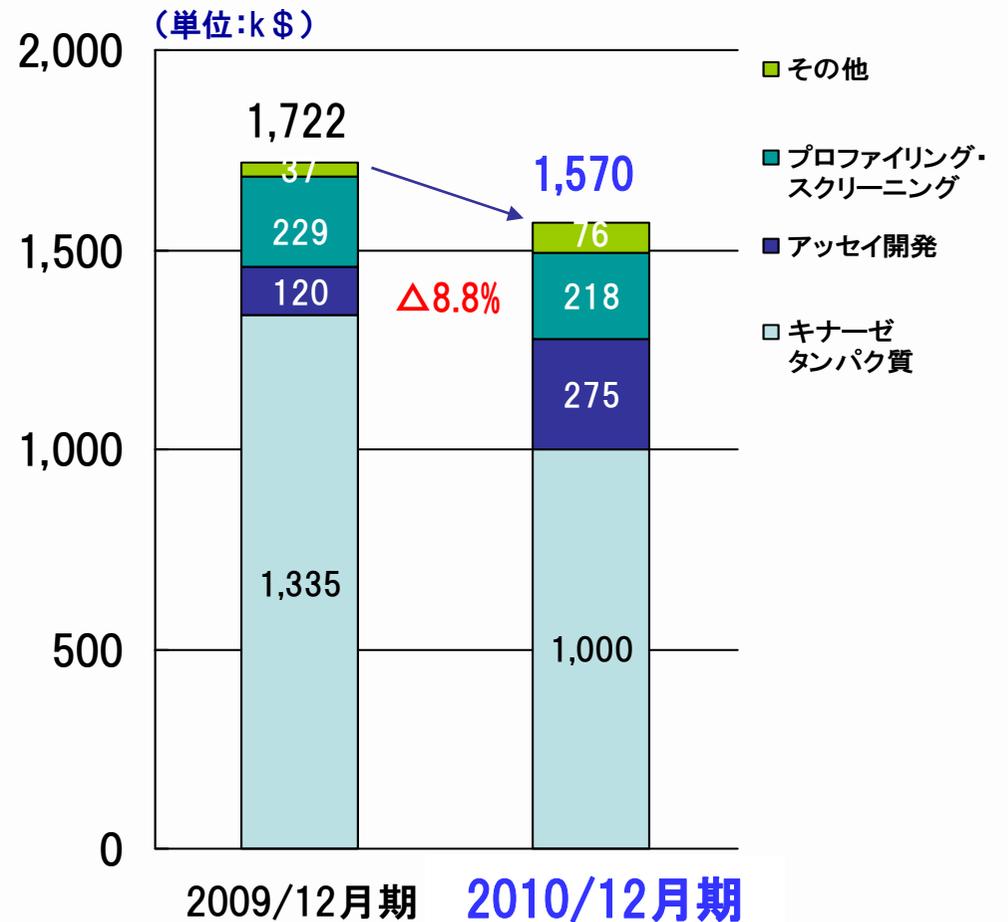
地域別売上高



製品別売上高(円換算)



製品別売上高(US\$)



(単位:百万円)

	2009年12月期	2010年12月末	増減額
流動資産	1,760	1,456	△303
現金及び預金	1,290	943	△347
有価証券	200	300	100
その他	269	213	△56
固定資産	283	199	△83
資産合計	2,043	1,656	△387
負債合計	242	290	48
純資産合計	1,801	1,365	△435
負債・純資産合計	2,043	1,656	△83

(単位:百万円)

	2009年12月期	2010年12月期	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	△419	△309	109
投資活動による キャッシュ・フロー	83	△ 45	△129
財務活動による キャッシュ・フロー	392	38	△ 353
増減額	58	△317	△ 376
現金及び 現金同等物の残高	1,490	1,173	△ 317

- 国立がんセンターとの共同研究(TNIK阻害剤)が、医薬基盤研究所の「基礎研究推進事業」に採択(最長5年)



- TCGライフサイエンス社との創薬サービスの戦略的業務提携

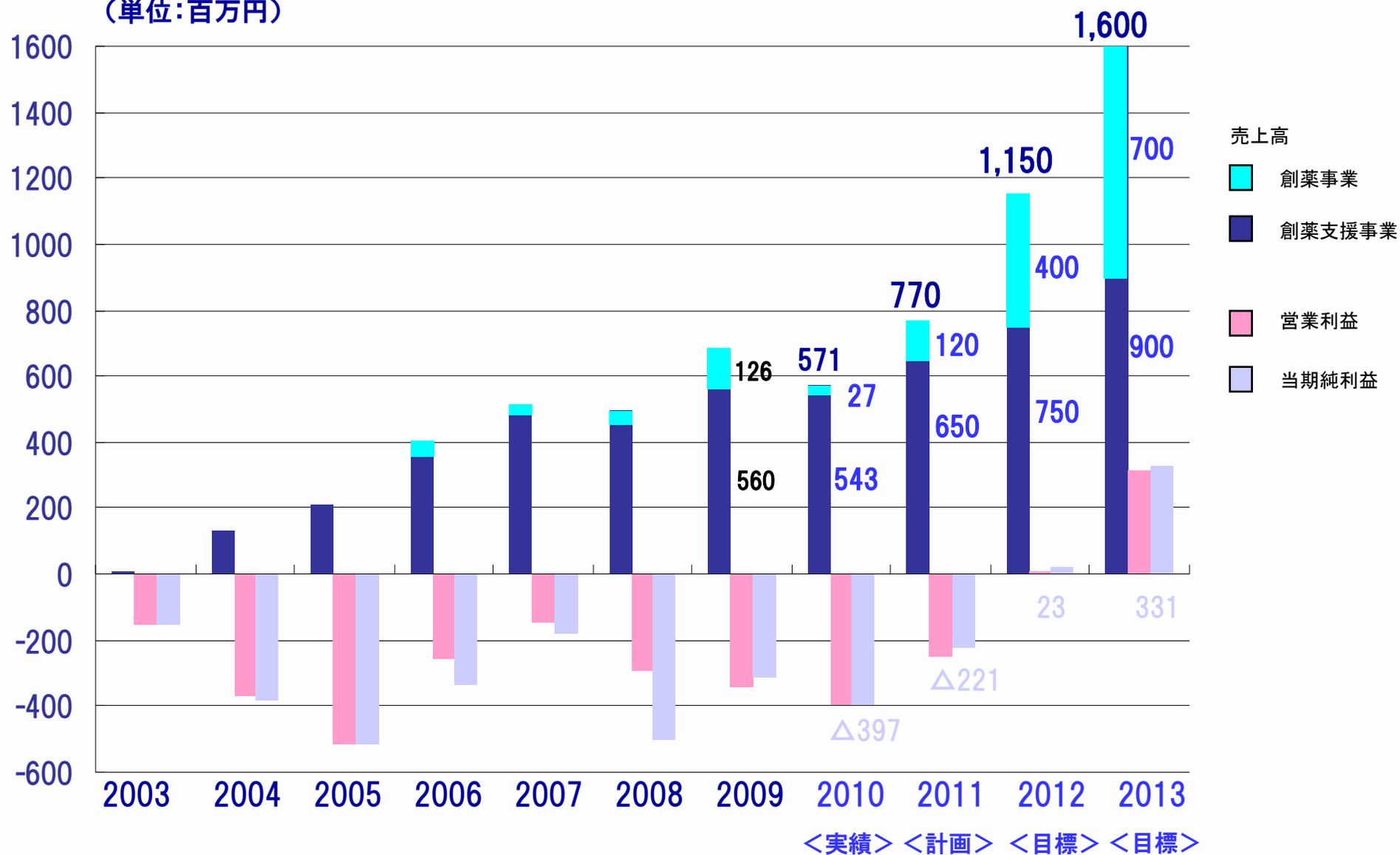
- 新商品 ビオチン化キナーゼタンパク質の販売を開始



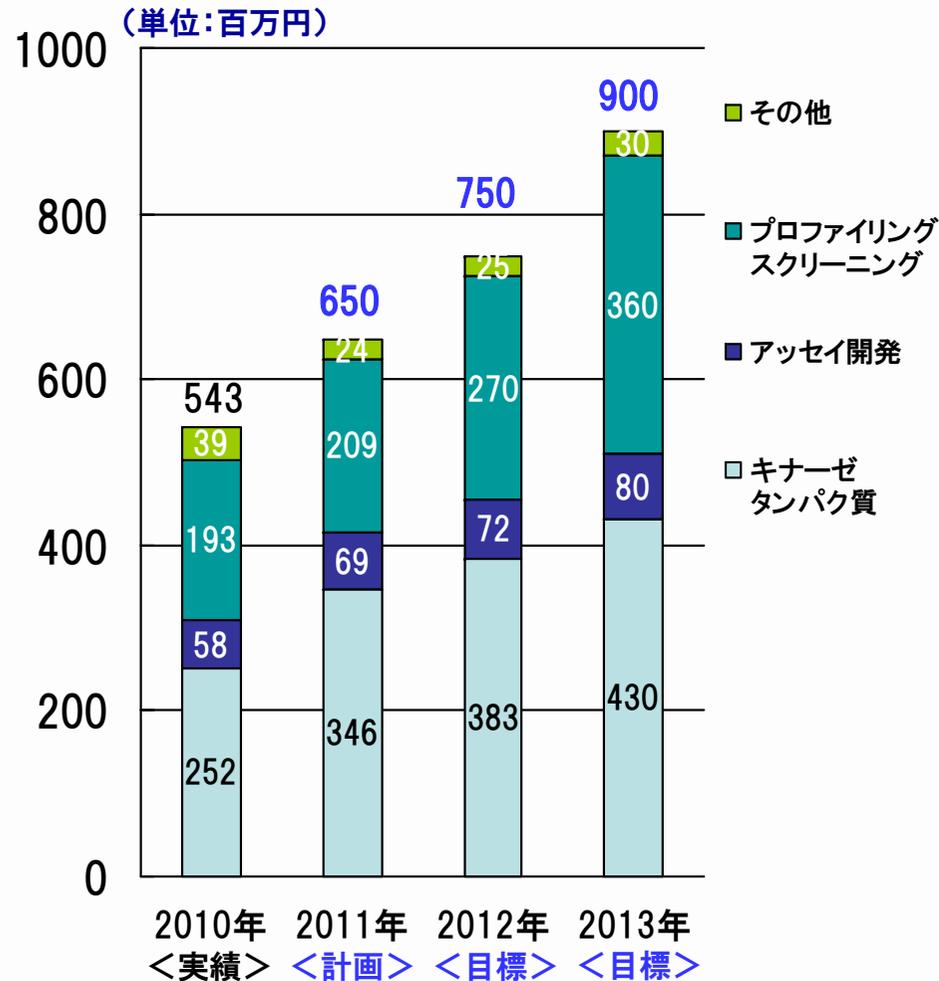
- 米国ACD社のアッセイ受託の代理店業務を開始

2011年～2013年12月期 中期事業計画 (マイルストーン開示)

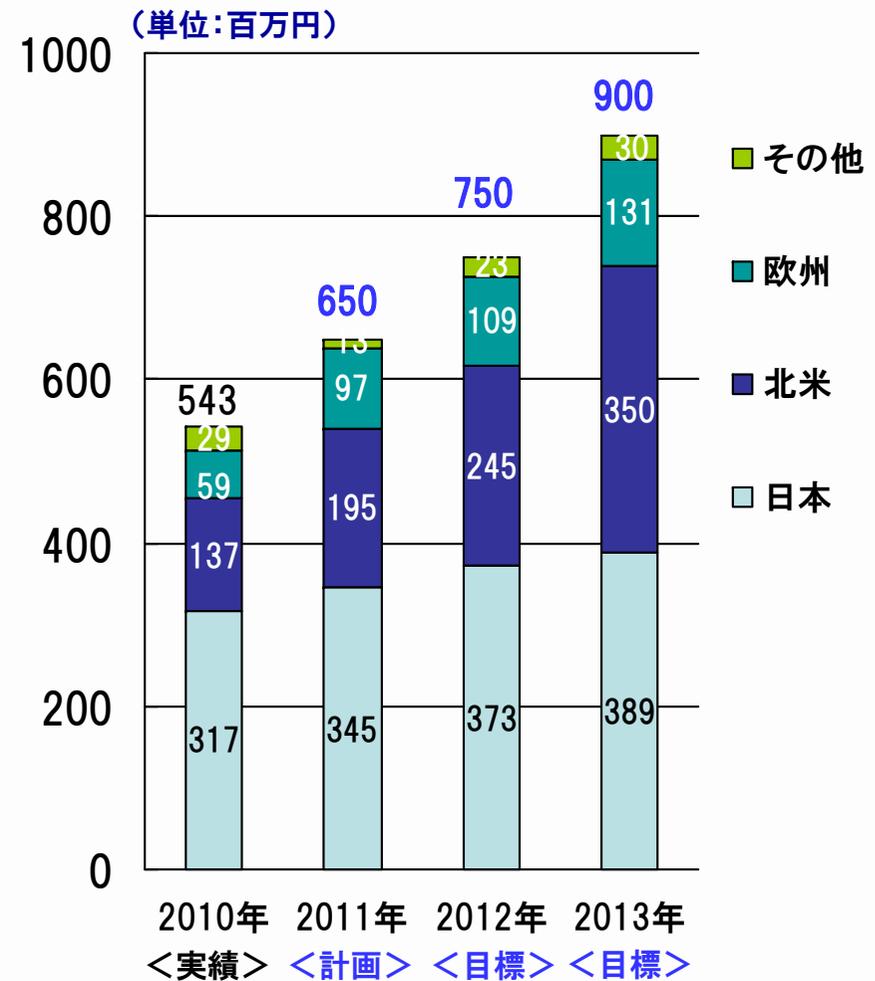
(単位:百万円)



製品別売上高



地域別売上高



- 欧米での売上拡大に取り組む

 - 当社製品の認知度UP（広告宣伝、顧客訪問数増）

 - 提案型営業の推進（学術要員の派遣）

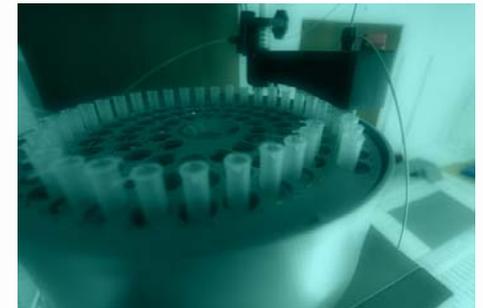
- 顧客ニーズに応じた製品・サービスの提供

 - ビオチン化タンパクなどの品揃え対応

- プロファイリング・スクリーニングサービスの売上増

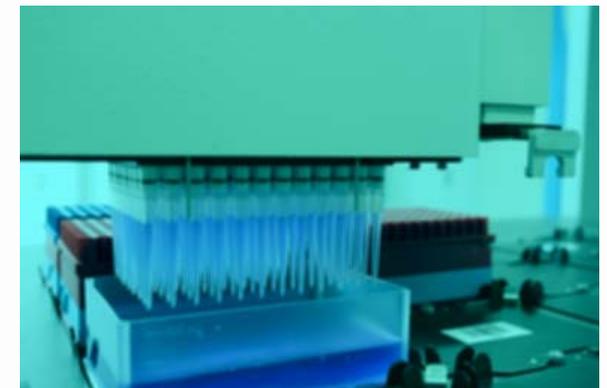
 - リードタイム短縮 ⇒ 顧客満足度向上 ⇒ 利益増

- ガンを重点領域とする。
- 導出を達成するため事業開発機能を強化。
- 2011年12月期に1テーマの導出を達成すべく導出交渉中。
- 薬理機能の強化(2011年12月期に2名採用予定)
- 前臨床試験のマネジメント要員(2012年12月期採用予定)



ステージアップ数	前臨床⇒臨床 (又は導出)		1	1
	探索⇒前臨床 (又は導出)	1	2	2
研究テーマ数		5	5	5

2011年 2012年 2013年
12月期 12月期 12月期



カルナバイオサイエンス



- ・ ドラッグデザイン技術
- ・ HTS(ハイスループットスクリーニング)技術
- ・ 化合物合成などの創薬化学技術
- ・ 独自のフォーカストケミカルライブラリー

神経変性疾患 治療薬の 共同開発

高い創薬基盤技術

キノファーマ



東京医科歯科大学発ベンチャー

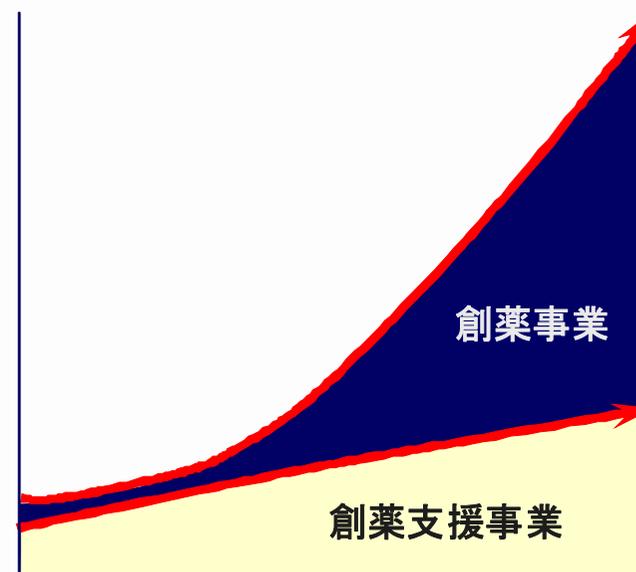
住所: 東京都文京区
代表: 代表取締役 黒石真史

- ・ 優れた薬理評価モデル
- ・ 臨床現場に密接した研究体制



様々な創薬評価技術

1. 当社の創薬事業は、従来の創薬ベンチャーとは異なり、膨大なコストと開発中止のリスクが高い第3相臨床試験(PIII)以降の段階は手掛けず、それ以前のいずれかの段階で大手製薬企業に化合物を導出するビジネスモデルを想定しております。
2. 当社は創薬支援事業においては2006年12月期以降黒字化しております。
今後も創薬支援事業での売上を伸ばすことで、2012年12月期には、会社全体として黒字化を目指します。
3. 当社は、ガンなどを対象疾患とするキナーゼ阻害薬の創薬研究をスピーディーに進めてまいりますが、一般的には、創薬の成果が実るには長い年月がかかることをご理解下さい。
4. 中長期的には成長トレンドにあるため、カルナバイオサイエンスの株式は、中長期的視野で保有していただきたく存じます。



今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

カルナバイオサイエンス株式会社

経営管理本部 経営企画部

〒650-0047

兵庫県神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA3F

Tel (078)302-7075 Fax (078)302-6665

<http://www.carnabio.com/>

ir-team@carnabio.com

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用下さい。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的に利用される場合においても、ご自身の判断と責任において利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。